

知ってる？

# チョウのこと

春から秋にかけて高尾山に咲く花から花へ、ひらひらと舞い蜜を吸うチョウたち。

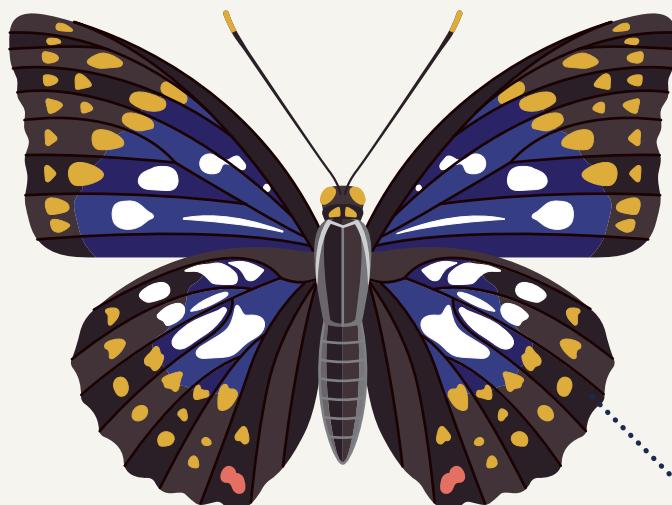
その鮮やかな翅の色は、私たちの目を楽しませてくれます。

昆虫の中でも人気の高いチョウたちですが、

高尾山でどんな暮らし方をしているか知っていますか？

## チョウとガは同じ仲間？

チョウはチョウ目というグループに含まれており、この中にはガも含まれています。日本に約6250種ものチョウ目の仲間が生息しているのですが、チョウと呼ばれるグループは250種ほどで、ほかは全てガです。



## チョウの口

チョウの仲間には、ストローのような吸う口があります。花の蜜や果汁、樹液などを吸います。普段は丸められています。

## 翅（はね）

翅には鱗粉（りんぶん）という粉が付いています。この鱗粉は雨を弾いて体が濡れるのを防いだり、クモの巣に捕まった時に逃げやすくするなどの役割があります。きれいな色のチョウの翅の模様は、この鱗粉によって作られています。

## オオムラサキ

学名：*Sasakia charonda*  
英名：Great purple emperor

1957年に日本昆虫学会により  
日本の国蝶に選ばされました。

## 高尾山のチョウ

日本には約250種類ものチョウが生息していることが知られています。高尾山がある八王子市からは、その半分近くの113種類のチョウが確認されていますが、その多くが高尾山周辺にも生息しているため、春から秋にかけて様々なチョウを見ることがあります。

なぜ多くのチョウが高尾山に生息しているのか、次のパネルでその秘密を紹介します。



日本産のチョウのうち、八王子市から45%が記録されています。

日本産チョウ類  
約250種

113種

八王子市から記録されているチョウの割合

# 知ってる？→ 高尾山に チョウが多い理由

## 高尾山の植物

高尾山は冷温帯と暖温帯の2つの気候帯の境目にあるため、北側の斜面には冬に葉を落とす落葉広葉樹林、南側の斜面には冬でも葉が残る常緑樹林と北と南で見られる植物が違います。そのため、高尾山全体で見られる植物の種類は多く、1600種を超える植物が確認されており、その数はイギリス全土で自生する種類の数に匹敵すると言われています。この植物が豊かな環境がたくさんのチョウを支えています。



南側の3号路で見られる常緑樹林



北側の4号路で見られる落葉広葉樹林

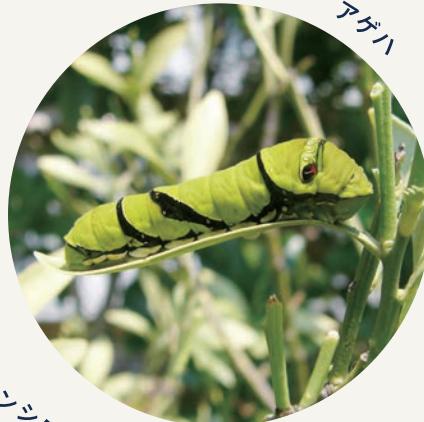


1号路の男坂(南側)と女坂(北側)で植物の違いがわかります

## チョウと食草の関係について

### 食草とは

チョウが幼虫のころに食べる植物のことを言います。チョウの多くは幼虫のときに決まった植物しか食べず、中には一種類の植物しか食べないチョウもいます。



モンシロチョウ



キヤベツ



その仕組みについて  
「チョウの幼虫たちは、  
なぜ偏食家なのか？！」  
でも解説します！

偏食家！？

高尾山に暮らす

# チョウと食草



## フジミドリシジミ

✗  
ブナ

幼虫が食べるブナは、本来涼しい場所に生育する植物です。高尾山のブナは、江戸時代中期の寒冷期からの生き残りと考えられています。ブナがあることで、標高の低い高尾山でも山のチョウが暮らせています。

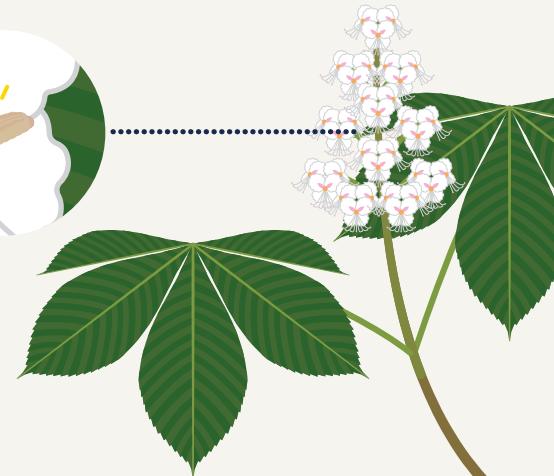


写真提供:永田正人日本チョウ類保存協会

## スギタニルリシジミ

✗  
トチノキ

幼虫はトチノキの花やつぼみを食べます。ブナ同様涼しい場所に生える木なので、スギタニルリシジミも山に行かないと出会えないチョウです。



## アオバセセリ

✗  
アワブキ

一目見たら忘れられない派手な模様の幼虫です。葉をまるめて中に潜む習性があります。



## オオムラサキ

✗  
エノキ

日本の国蝶としても知られるオオムラサキ。幼虫の2本角の顔がなんともかわいらしいです。冬は幼虫の姿で食草であるエノキの落ち葉の裏で春を待ちます。





## ミヤマカラスアゲハ



## カラスザンショウ

幼虫はキハダも好みます。成虫は山内の水たまりやツツジの花によく来ます。一見黒いチョウですが、よく見ると青と緑にきらめく翅が美しいチョウです。ふもとではあまり見られません。

ミカン科のカラスザンショウは他のアゲハチョウの幼虫も食べます。



ミヤマカラスアゲハ



クロアゲハ



カラスアゲハ



オナガアゲハ

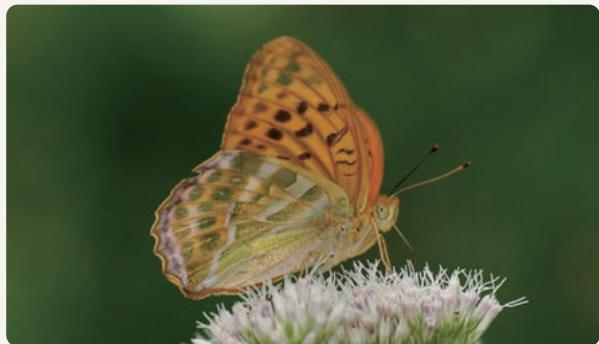


## ウスバシロチョウ



## ムラサキケマン

見た目は白いチョウですが、実はアゲハチョウのなままであります。春に山のふもとで見られます。



## ミドリヒヨウモン



## タチツボスミレ

幼虫は他のスミレも食べます。高尾山にはスミレのなままで多く見られるので、暮らしやすい場所かもしれません。



## チョウの幼虫たちは、なぜ偏食家なのか？！

なぜ、チョウの幼虫は決まった植物しか食べないのでしょうか？好き嫌いをして、味が嫌いだからというわけではありません。

植物は昆虫に葉を食べられないように、毒を使ったり、強い匂いを使ったりして身を守っています。

一方、昆虫たちは葉を食べるためには植物に対して体を適応させています。植物によって成分が違うため、植物を食べる昆虫は、一つの種や近いグループの植物しか食べられなくなりました。



幼虫は決まった植物しか食べられません。

植物の種類が多いほど、  
昆虫の種類が多いのは、  
そのためなんだ！

目指せ高尾山！→ 旅するチョウ

# アサギマダラ



アサギマダラは「海を渡る旅するチョウ」として知られています。なんと 1500km も移動した記録があります。夏の暑い時期は標高の高い場所や北に移動し、秋に涼しくなると標高の低いところへ降りてくるものが多いです。しかし、長い距離を移動する理由については、まだ分かっていないこともあります。



## マーキング調査

アサギマダラがどんなルートで旅をしているかを知るために、マーキングという方法で調べられています。まず、捕獲した成虫の翅に捕まえた場所がわかる印をつけて放します。移動した先で再び捕獲されると、移動したルートが分かるのです。



高尾山では函館や富士山でマーキングされたと思われる個体が見つかっています。

## アサギマダラと高尾山

10月は、高尾山にたくさんの成虫が集まつくるので、もっとも観察がしやすい時期です。アサギマダラは、高尾山で見られる代表的なチョウのひとつです。アサギマダラたちが高尾山にやってくる理由は、食草のキジョランが豊富にあるためです。冬は幼虫の姿でキジョランの葉の裏で過ごすため、冬越しの場として高尾山を選んでいるのです。冬を越した幼虫たちは、5月頃に成虫になり、高尾山周辺で過ごすもの、別の場所を目指すものがあります。高尾山は、一年を通してアサギマダラを観察することができる山なのです。



冬越しをするためには、  
キジョランがなくちゃ  
いけないんだ～



キジョランの葉の裏で越冬する幼虫。丸い穴は葉を食べた跡です。この跡がある葉には幼虫がいることがあります。

# 8月・9月 → 高尾山 1号路の チョウの観察スポット



## 観察時 の注意

- ・スズメバチに注意しましょう
- ・毒をもつガの幼虫もいるため、むやみに触らないようにしましょう

## 観察時 のお願い

チョウたちの暮らしがあるのでそっと近づいてやさしく見守ってください